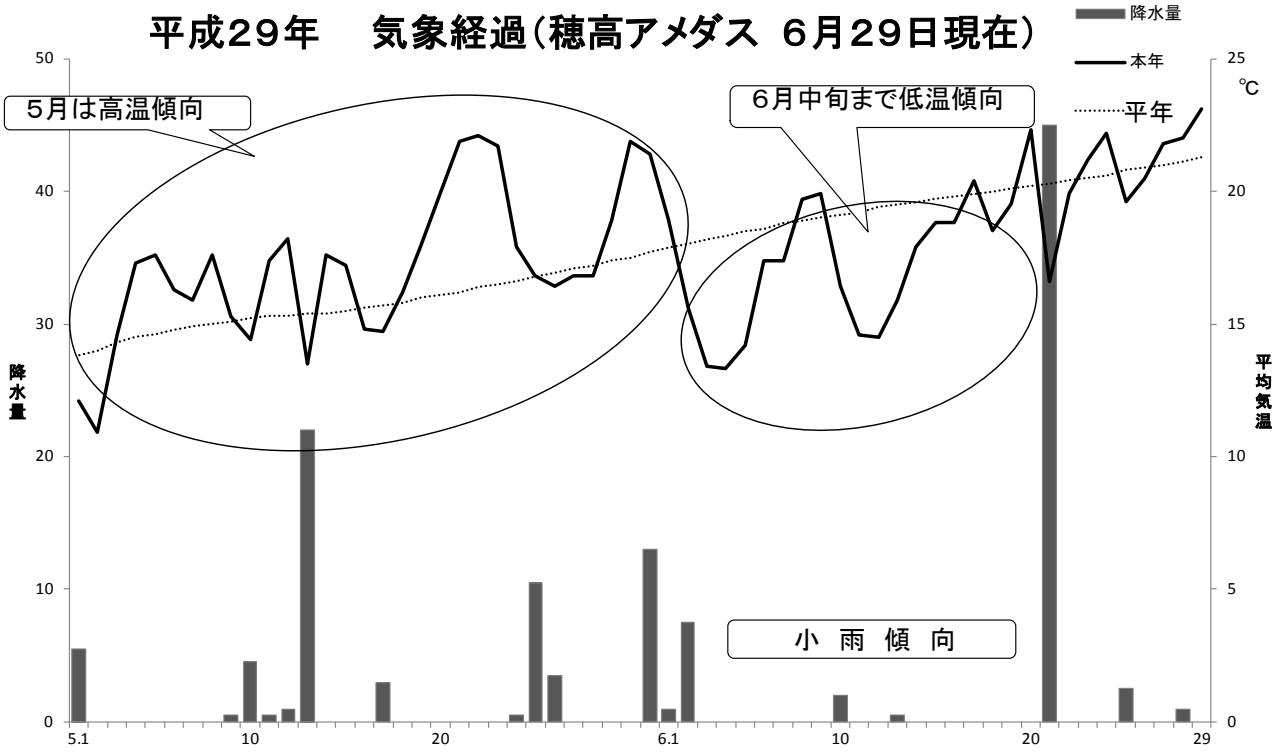


平成29年度 作物技術普及情報 第10号

(水稻の生育状況・出穂期予測、大豆の湿害・雑草対策について)



1 水稻生育状況(6月30日現在)

	安曇野市豊科 水稻奨決ほ(5月16日田植) (標高: 560m)						松本市新村定点 (標高620m)		朝日村定点 (標高920m)	
	コシヒカリ		あきたこまち		美山錦		コシヒカリ		あきたこまち	
	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)
本年	46	694	43	623	44	525	46	563	37	309
平年	49	645	50	544	52	486	49	574	45	405
平年比	94%	108%	86%	115%	85%	108%	94%	98%	82%	76%
昨年	51	579	50	478	57	382	53	655	51	371
昨年比	90%	120%	87%	130%	78%	137%	87%	86%	73%	83%

コシヒカリ 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の予測日	幼穂長 10mm の予測日	出穂期 の予測日
本年	0.366	7月18日	7月25日	8月11日
平年	0.369	7月16日	7月23日	8月9日
平年差	平年より2日程度遅い			

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

あきた こまち 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の予測日	幼穂長 10mm の予測日	出穂期 の予測日
本年	0.481	7月9日	7月16日	8月1日
平年	0.499	7月6日	7月13日	7月28日
平年差	平年より3日程度遅い			

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

豊科定点圃場では草丈は平年より短く、茎数は多い傾向です。

最高分けつ期で、畝間の見えないような茎数過剰の圃場も見られます。
茎数過剰で中干しが未実施の圃場では、早急に中干しをお願いします。

6月29日現在、DVIによる生育進度では「平年より2～3日遅い」と推定しています。

○向こう1ヶ月の気温は高いと予想されており、今までの生育の遅れは回復することも予想されます。

○「刈り取り開始予測」は次回より発信予定です。気象変動（高温・低温）に対応できるような施設稼働・収穫計画をお願いします。

2 葉いもち病、カメムシ対策（畦畔除草）について

○ 6月下旬以降、降水量が多くなり梅雨らしい模様となっています。
今年は分けつが過剰気味なので、いもち病に注意が必要な姿と思われます。

6月29日現在のいもち病感染好適条件の判定結果では、感染好適条件が出現し始めています。

条件が揃えば、感染好適条件出現から7日程度で、病斑が確認できると思われます。

特に、常発地帯・昨年多発した圃場、有機物のすき混みの多い圃場、わらや脱穀の残渣を放置した場所、苗箱剤の未使用圃場、直播圃場等では、圃場をよく観察して、発生状況によっては防除対策を講じてください。

苗箱剤を使用していても、7月下旬から感染好適条件が頻発すると、穂いもちの発生が多くなる場合があります（例：平成23・25・26・27年）ので、今後の葉いもちの発生状況（特に上位葉の病斑の有無）には十分ご注意ください。

- 水田畦畔や水田周辺の雑草防除はカメムシ対策に有効です。カメムシの本田への追い込みを防ぐためにも、出穂2週間前まで（海の日：7月17日を目標）に、畦畔除草を済ませるようにお願いします。

3 適期中干しと適期・適量追肥について

「適期中干しによる適正茎数確保」と「黄化させすぎない適期・適量穂肥」は高温障害対策にもつながります。

4 大豆の湿害・雑草対策について（再掲載）

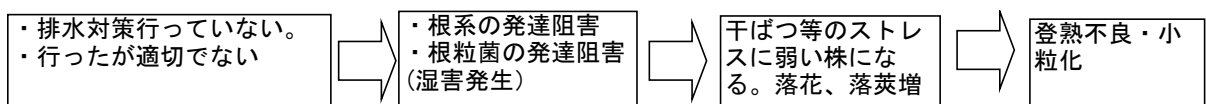
小麦後大豆は播種が始まっています。播種後1か月間は、大豆の出芽～初期生育を確保し、効果的な雑草防除に最も重要な時期ですので、下記の点についてご留意ください。

（1）湿害対策の徹底

額縁明渠や排水溝等を設置し、湿害対策をしっかりと行うことが、大豆の出芽や初期生育を安定させるのに最も重要です。また湿害対策が干ばつ対策にもつながります。

明渠や排水溝はただ掘るだけでなく、水尻につながっているか・・圃場外に確実に排水ができているか・・を再度ご確認ください。

【 湿害～干ばつによる減収パターン 】



（2）雑草対策について

播種後土壌処理除草剤の処理は必ず実施してください。播種後土壌処理除草剤の効果を引き出すには、除草剤処理時の碎土状況（粗いと効果が劣る）や土壌水分状況（乾きすぎだと効果劣る）が重要なポイントです。

また播種後2週間位で圃場を観察し、除草剤の効果の確認をお願いします。

残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。

雑草が大きくなりすぎ、茎葉処理剤の効果が十分に発揮されない場合がありますので、タイミングを失しないようにお願いします。

近年、帰化アサガオの発生が問題になっています。放置すると2～3年で、ほ場に蔓延して手に負えなくなるので、発生の少ない内にほ場から除去することが重要です。

帰化アサガオに対しては、「茎葉処理除草剤」と「非選択性除草剤の畝間処理」を組み合わせた対策も有効です。詳細は普及センター担当までお尋ねください。